

# “この道ニッポン(仮称)”について

# 1. アメリカの取り組み

## 経緯

- 1978 | 野外広告規制運動をきっかけとしてシーニックアメリカ協会(NGO)が設立。
- 1979 | 「シーニックバイウェイ調査法」制定
- 1991 | シーニックバイウェイ国家諮問委員会を設置
  - ・指定基準、登録方法、連邦の支援内容等を決定
- 1996 | 第1回指定 以降2年に1度の見直し(指定)
- 1999 | リソースセンター の設立・運営

現在2005年度のルート指定の審議中

評価項目
景観性、 歴史性、 自然性、 文化性、 レクリエーション性、 考古学性

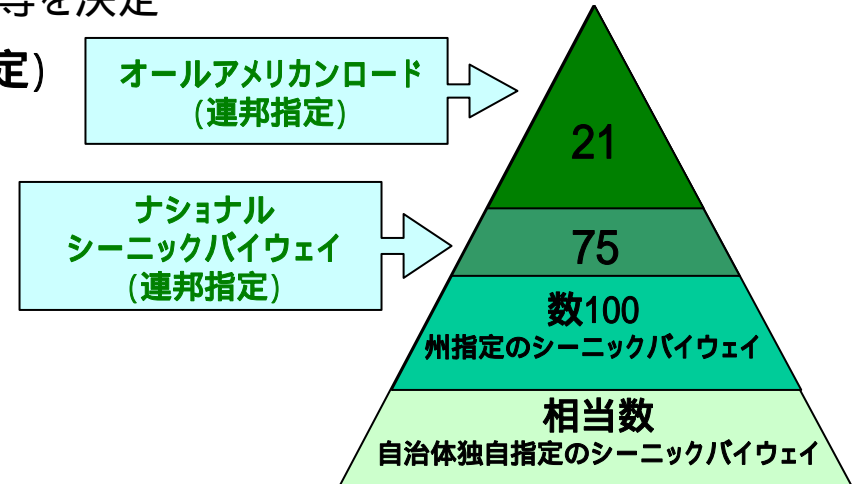


図 アメリカのシーニックバイウェイ指定ルート数

## Scenic Byway とは

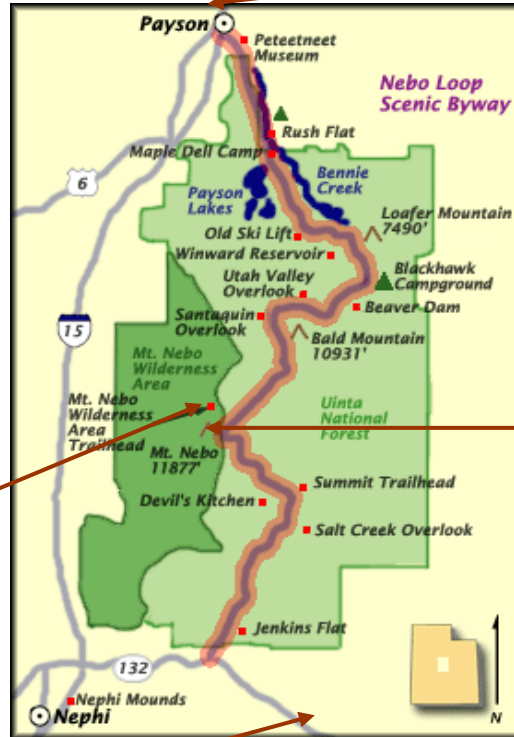
Scenic : 風景の; 景色のよい; 景色を描いた; 舞台の; 劇の; 背景の; 巧みな描写の  
Byway : わき道; 抜け道; 間道; (学問など)あまり知られていない分野  
By-way : 沿道

# シーニックバイウェイ事業例

## No.86 Nebo Loop Scenic (ユタ州)



地域住民による計画立案



花壇の設置



自転車道・整備



散策道の整備



駐車場の整備



ビューポイントの整備

## 2. 北海道での取り組み

### 経緯

H15. 2 | 「北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入モデル検討委員会」設置

H15. 4 | モデルルートの指定・活動団体の募集

H15/16 | 2つのモデルルートを選定。NPO等と連携しながら取り組み

H17. 4 | 本格運用開始

H17. 5 | 第1回ルート指定

H17. 7 | シーニックバイウェイ支援センター設立

### 活動概要

地域住民主体の運営体制づくり

地元行政との連携事業等

景観診断

景観整備等

- ・案内標識の小型化
- ・固定式視線誘導柱の一時撤去
- ・ビューポイントの整備
- ・沿道植栽・道路清掃

プロモーション活動及び広報活動

道の駅、スノーステーションの開放

(物産販売、情報提供の場として利用) 等



# 北海道における取り組み事例



案内標識の小型化(富良野市付近)



矢羽根の一時撤去



ビューポイント整備



景観診断

### 3. 『この道ニッポン(仮称)』の基本コンセプト

美しい景観や活力のある地域づくりを支援する道づくりの推進

- 道そのものや、風景を楽しむ空間形成
- 休憩し、新たな体験や発見をする空間形成

日本の文化や特長を生かした道づくりの推進

- 協働 (企業、ボランティアやNPO等)による道づくり
- 都市の観光拠点との連携
- 道の駅のような交通・産業・情報の拠点との連携
- 諸活動の舞台となる空間形成

一過性の取り組みではなく、地域の諸活動を継続的に支援



オープンカフェ



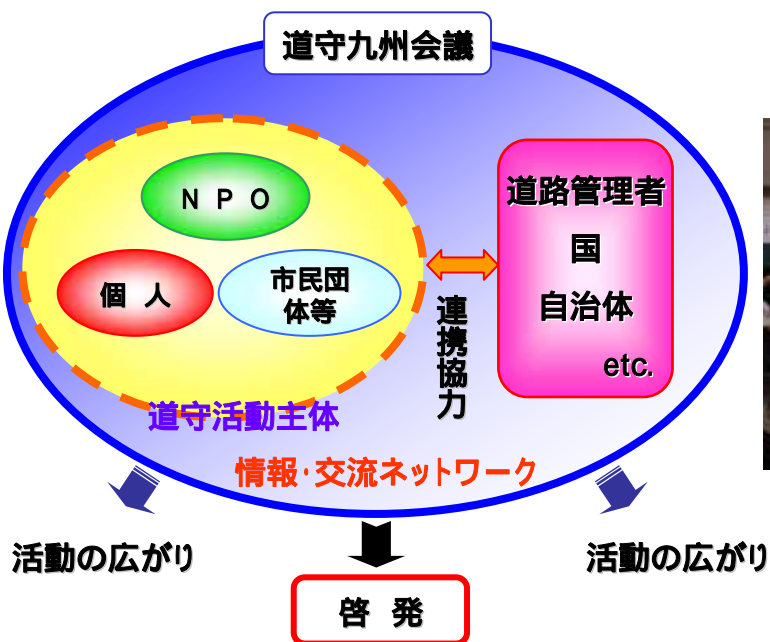
地元婦人会による植栽活動



御堂筋パレード

# 「道守」九州会議（九州での取組み事例）

NPOや市民団体・企業・個人などの方々がネットワークを形成し、情報交流や情報発信などの活動を通じ、道への関心や愛護の心を育み、道を守り育てる活動の普及を目指す



学習・意見交換



体験



交流



パネル展



道守通信(年4回)



平成17年1月末現在

一般会員: 334 (団体・個人) 約2万1千人  
賛助会員: 102 (団体・個人)

「道守HPアドレス <http://www.michimori.com/>

## 4.『この道ニッポン(仮称)』 今後の進め方

“この道ニッポン(仮称)戦略会議”の設立

モデルルートの公募

必要な制度等の検討

運営ルールの検討

指定基準、登録方法、情報提供や広報、人的支援の方法等

予算制度の検討

支援の仕組みやその制度化に向けた検討

組織の検討と設立準備

推進体制・組織形態の検討